

～院長室から～
管理型研修病院へ
院長 与芝 真彰

～新任医師の紹介～
『specialist』に憧れて
榊原里恵

当院の第一印象
桑原里佳

貴重な体験
中元秀樹

News & News

管理型臨床研修病院に
指定されました

入院予約センターが
開設されました

第9回せんぼ医療感染講習会
のお知らせ

第12回地域医療懇話会・懇親会
開催のお知らせ

vol.26
2009.10.1

せんぼだより
うえーぶ
Wave



せんぼ
東京高輪病院
地域医療連絡室

〒108-8606
東京都港区高輪3丁目10番11号
tel:03-3443-9576 fax:03-3443-9570
URL:http://www.sempos.or.jp/tokyo

病院理念

私たちは、病に苦しむ人や障害に悩む人に科学的根拠に基づく最善の先進的医療を迅速かつ安全に提供するとともに、人権と個人情報の保護を心がけ、相互信頼に基づく快適な医療の実践に努めます。 せんぼ東京高輪病院

～院長室から～

管理型研修病院へ

せんぼ東京高輪病院
院長

与芝 真彰



従来は大学を卒業した医学生の7割は出身大学の医局に入局して専門医教育を受けるか、入局しなくても内科や外科などの専門を決めて臓器別に分かれた専門診療科を2年位かけて研修しました。つまり、大部分の学生は卒業と同時に専門医教育を受けていた訳です。この卒後の研修は努力目標であって法的に強制されたものではなく、自主的に行われていました。この結果、救急疾患に対応できなかつたり、自らの専門領域以外には対応能力の低いドクターが誕生していました。それに対する反省として平成16年から2年間内科、外科、救急、産婦人科、地域医療などを中心に最低数科を強制的に研修させる新研修制度がスタートしました。

この制度には給与など経済的裏付けがあり、また就業時間の制限など従来にない利点がありましたが、それ以上に大きかった点はその2年間は大学の医局に入局できない事と一定の要件を満たせば多数の一般市中病院でも研修が可能になった点です。このため半数以上の学生が大学病院を離れ、大都市の一般市中病院で研修を受けるようになりました。この結果大学病院の人事権が低下し、僻地や産婦人科、小児科などリスクの高い医療に支障を来すようになっていく事は皆様よく御存知の事と思います。これまで我国の医師はほとんど経済的裏付けのないまま、大学病院に残って教授の管理のもとに厳しい経済環境の中で研究や専門医としての研修を受けていました。我国の大学病院はそのような医師達の自己犠牲の上に成立していたのです。新研修医制度はそのようなこれ迄の不条理な我国の医療体制を崩壊させた面があります。国はこれまでこの問題を放置した責任を認め、根本的解決をする必要があります。

当院は現在東京大学の協力型研修病院として前期研修の一部を受け持っています。現在3名の前期研修医が8ヵ月間の予定で内科と整形外科で研修を行っています。3人共になかなか優秀で、すでに入院の受持医として頼りになる存在となっています。その他、これは国の制度にはないのですが、2名が後期研修医（常勤嘱託医）として内科で専門医教育を受けています。

若いドクターは病院全体の雰囲気明るくし、活気あるものとする貴重な存在です。また、他人を教育するには教育する方も勉強しなければなりませんので、病院の医療内容を向上させる効果もあります。

当院は250床のベッドと45人の各科専門医を有し、2次救急病院の指定を受けておりますので、「管理型」の研修病院としての資格を十分備えております。私が着任して今年から当院も管理型の初期研修病院として手上げを致しました。既に7月19日に民間医局主催のもとに東京ビックサイトで開催されたレジナビ・フェア（医学部5年生向けの研修教育病院の案内会）に参加しました。約1,400人の学生が集まりましたが、当院は初参加で何の実績もないのに56人の学生が名前と連絡先を残してってくれましたし、数人は研修先としてぜひ来たいと言ってくれました。地方の病院には申し訳ないのですが、当院の立地や待遇が有利に働いたのだと思います。

9月初めに医道審議会の審査を経て、当院が稲城市立病院と共に都内の管理型基幹病院として指定を受けた由報道があり、早くも9月20日には応募者との面接が行われました。来年からいよいよ当院を基盤とする初期研修が始まり、当院が若い人達の活躍する活気のある急性期病院として発展する事が期待されます。

新任医師の紹介

今回は特集として、8月から勤務している初期研修医3名のご紹介です。自己紹介をかねて、「目ざす医師像」と「せんぼ東京高輪病院の第一印象」について寄稿いただきましたので掲載いたします。

『specialist』に憧れて

さかさばら
榊原 里江



東大病院の管理型プログラムとして、今年8月より8ヵ月間の初期研修にまいりました研修医2年目の榊原里江です。私は将来、呼吸器内科医を志していますが、研修期間中に、より多くの内科系疾患の診療に取り組みたいと思い、せんぼでの研修を志望しました。

9月現在は、消化器内科をローテート中ですので、消化器の話をさせていただきます。

せんぼの消化器内科には、あらゆる分野の達人『specialist』と呼ばれるにふさわしい先生方がたくさんいらっしゃいます。肝臓の達人、ERCPの達人、内視鏡の止血の達人、などなど…。救急疾患の多い消化器内科では、処置のスピードと正確性が要求されますが、達人の先生方が精密かつ迅速に治療されると、患

者さんの黄疸は消え、下がり続けたHbが止まり、さまざまな症状が劇的に改善されていきます。そのような消化器の『specialist』であり、魅力あふれる先生方のご指導のもと、私自身も消化器内科の診断・手技の能力を少しでも吸収できるよう努力しています。

また『specialist』を目ざすには、まず『generalist』であることも不可欠であるため、救急外来でせつせと初期診断・初期治療の経験を積み、より多くの疾患と出会うことで充実した研修生活を日々送っています。

まだまだ未熟な点が多く、『specialist』には程遠い道のりですが、せんぼで内科の基礎をしっかりと勉強し、精進していきたいと思いますので、今後ともどうぞよろしく願いいたします。

当院の第一印象

くわばら
桑原 里佳



今年の8月から、せんぼ東京高輪病院で研修医としてお世話になっています。

これまでは大学病院で内科(消化器内科・循環器内科・血液腫瘍内科・アレルギーリウマチ内科)・外科(胃食道外科・耳鼻科)・麻酔科(救急)・産婦人科・小児科・精神神経科を回りました。選択期間であるこの8ヵ月間は、こちらで内科研修をさせていただいております。最初の3ヵ月間は循環器内科を、その後は消化器内科を回る予定です。

こちらで働く前に一度、面接・オリエンテーションのために、当病院にうかがったことがありました。「とて

もきれいな病院だな」と感じ、外来ロビーの吹き抜けが素敵な印象でした。品川駅に近いのでアクセスが良く、買い物にも困らないですし、何より周辺環境がとても魅力的です。通勤・帰宅時に品川・高輪近辺を歩けるのは、とても気持ちの良いものです。

研修生活における第一印象は、「やはり大学病院と市中病院は様相がちがう」というものでした。今までも先輩方から話では聞いてはいましたが、自ら実際に身をおいてみると、そのちがいを肌で感じます。

大学病院では主に病棟の担当で、すでに診断されている方や治療中の方を診ることが多かったため、私に関し

て言えば、診断をすすめていく過程を見る機会が比較的少なかったような印象がありました(研修医の数も多く、また時期によっても患者数に偏りがあるので、運もかなりの割合で作用してくるのは確かなのですが…)。

市中病院にくる患者さん、特に内科救急外来では頭痛・胸痛・腹痛・発熱…等、さまざまな症状の訴えがあり、教科書通りの症状・所見を持つ方もいれば、そうでない方もいる。2年目にしてやっと、診察・検査・診断の流れを頭の中で組み立てていくおもしろさを感じています。

当院に来てからそろそろ2ヵ月になりますが、今まで特に印象的だったのが、腹痛を主訴に独歩で来院した

患者さんの症例でした。自覚症状には乏しかったのですが、採血・心電図をとると、なんと急性心筋梗塞だったのです。もちろんそこから緊急カテーテル検査、およびインターベンションが始まったわけですが、見立てだけで判断してはいけない、というのがその日の感想でした。

短い期間ですが、今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

貴重な体験

なかもと ひでき
中元 秀樹



今年の8月よりお世話になっております研修医2年目の中元秀樹です。整形外科を志望しており、せんぼ東京高輪病院での8ヵ月の研修期間中は整形外科を中心に研修させていただき予定です。

研修医として整形外科を回るのはせんぼが初めてなので、包帯の巻き方といった基本的なことですらわからないことが多々ありましたが、1ヵ月を越えてようやく業務に慣れてきたところです。多くの病院で同じことが言えると思いますがせんぼの整形外科も先生方を初め、外来・病棟の看護師さん、リハビリテーション部のPT・OTの先生方が明るくやさしい方ばかりで日々楽しく研修させていただいています。

手術件数も、多いときは毎日数件手術が入っていて、1ヵ月ちょっとの間に何件か執刀もさせていただきました。上の先生方はこちらがやる気を示せばそれに応じてさまざまなことを任せてくださいますし、わからない事についてはていねいに教えてくださいます。高輪救急を始め、二次救急の受け入れもしており、都内の病院とし

ては比較的外傷の症例も多く、多発骨折や開放骨折の症例も診ることができました。副院長の中川先生が末梢神経を専門としていらっしゃるの、腕神経叢損傷や肘部管症候群の症例が多いのもせんぼの特徴であると思います。大学病院や他の病院ではあまり見ることがない症例ですので、とても貴重な経験と言えます。日々の病棟業務・手術に加え、指導医の先生と一緒に当直も始め、救急外来の診療をさせていただいております。

病院全体の研修体制としては、月に2回研修医の勉強会が開かれています。自分たちで症例発表をするのと同時に、毎回各科から先生がレクチャーをしに来てくださるので、他科について勉強するよい機会となっています。

多くの先生方、コメディカルの方のご協力のもとに充実した研修生活を送ることができ、せんぼに来てよかったと思います。まだまだ未熟な点も多く、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしく願いいたします。

管理型臨床研修病院に指定されました

このたび当院は、以前からの協力型臨床研修病院に加え平成22年度から、管理型臨床研修病院として指定を厚生労働省から受けました。この指定を受けるにあたりましては、以下の項目について急性期の病院として機能をはたしているか厚生労働省の審査を受けました。

- ① 研修医が十分に研修できるための一定数以上の指導医、外来患者数、入院患者数、救急患者数、手術件数を満たしているか。
- ② 患者の病歴に関する情報が適切に管理されているか。
- ③ 研修に必要な施設、図書、病歴管理の体制が整備されているか。
- ④ 研修プログラムが完備されているか。

以上の項目はさらに細分化され膨大な資料として提出され、これまでの実績が指定病院としての基準を満たしているか厳しく審査されました。

その結果、9月4日の医道審議会・医師分科会医師臨床研修部会で、すべての条件が適当であると認められ来年度から指定病院になることができました。

今後も地域の基幹病院として、先生方の信頼にこたえるべく医療レベルの向上、高品質な医療の提供に取り組んでまいります。あらためてよろしくお願ひいたします。

入院予約センターが開設されました

9月1日から、1階ホール地域医療連絡室のとなりで稼働を開始しました。患者サービス及び診療効率の向上をはかるため、これまで診療科ごとに行っていた入院時の説明、予定入院の手続きを一元化することを目的とし、簡略化を図ってまいります。まず内科から開始し、順次対象診療科を拡大していく予定です。



第9回

せんぽ医療感染講習会のお知らせ

インフルエンザが例年より早いペースで流行しています。本格的なシーズンにはいる直前に下記のとおり開催します。講師は以前講演いただきました森兼先生です。多数の皆さまのご参加をお待ちしております。

日時 平成21年10月23日(金) 19時00分～20時30分
場所 1階 外来ホール
演題 「新型インフルエンザの脅威・大流行に備えて」
座長 副院長・地域医療連絡室長 小山広人
演者 東北大学大学院医学系研究科 内科病態学講座
感染制御・検査診断学分野
講師 森兼啓太 先生

第12回

地域医療懇話会・懇親会開催のお知らせ

本年の地域医療懇話会の日程が、下記のとおり決定しました。今回は「国際館パミール」が会場となります。例年とちがっておりますのでおまちがいのないようお願いします。いつも医療連携にご協力いただいている先生方と顔を合わせる意見交換の場として院長はじめ当院医師、医療スタッフ一同心よりお待ち申し上げております。ご多忙中とは存じますがなにとぞご出席いただきますようよろしくお願い申し上げます。

日時 11月20日(金)
場所 グランドプリンスホテル新高輪 国際館パミール
時間 午後7時 懇話会
午後8時 懇親会

編集後記



春が終わってすぐは、今年は暑くなるのが早いかなと思ったのもつかの間、9月になって急に秋が来たという感じです。今年の夏は暑い日は一瞬だけだったような感じでした。新学期が始まると同時にインフルエンザが流行するなど落ち着かない日々が続いています。今回のうゑぶは管理型臨床研修病院指定を記念して研修について特集してみました。政権交代により医療行政の先行きも変革が予想されます。来年の診療報酬改定もあり、息が抜けない日々が続きます。なによりも健康第一、先生方におかれましてはご自愛くださるようお願いいたします。